

イリノイ大学派遣留学月例報告書

先月末のサンクスギビングが明けてから、今月はあっという間に終わってしまいました。その後フロリダへの旅行もあり、とにかく、12月は大変に忙しい月になりました。

ところで先月の報告書の書き出しで、スクワローと呼ばれるリス達もまるまる太って、これからの冬眠の準備でしょうか？と書きましたが、



写真のように寒くても、雪が降っても元気いっぱいです。一体イリノイのスクワローはいつ冬眠するのでしょうか？それとも、ここのスクワローはどれだけ寒くならうとも、冬眠しないのでしょうか？疑問です。後日、友人に確認したいと思います。

さて、今月の報告書は秋学期が終わりましたので、その総括と反省を述べたいと思います。また、先月韓国についてだけ報告しましたが、アメリカに留学してアメリカについて述べないのはおかしいと思いますので、今月はそのアメリカについてご報告いたします。

<内容>

1. 秋学期の総括と反省
2. テレビや新聞では教えてくれないアメリカ
 2. 1 人種の問題
 2. 2 シカゴで出会った浮浪者
 2. 3 テレビや新聞では教えてくれないアメリカのまとめ
3. まとめ ——7ヶ月を振り返って——

1. 秋学期の反省と総括

渡米してから7ヶ月が経過しました。気が付けば帰国までの折り返し地点も遠に過ぎ、帰国までラストスパートをかける時期になってきたのかもしれません。そこで、秋学期を振り返り、次の春学期に備えたいと思います。

秋学期に履修した科目は、以下の4つでした。うち大学院レベルのクラスが二つ、学部レベルのクラスが2つです。

- SPSHS 375: SPEECH SCIENCE I
- THEAT 170: FUNDAMENTALS OF ACTING
- THEAT 374: MODERN JAPANESE DRAMA
- ESL 113: English Structure and Paragraph Development for Undergraduate Students

SPSHS375 は10月分にも報告しましたが、聴講のみという形での参加でした。当初、単位取得を目指しましたが、リスニングの能力の不足から、講義を満足に理解することができず、結局教員と相談の上、聴講生という形で受講しました。今期を振り返って最も力を発揮することができなかったのはこの講義でした。来期も継続してこの科目を履修する予定ですので、休みの間に出来る限りの復習をしておきたいと思います。

THEAT170 は演劇の演技について学ぶクラスです。このクラスでの実技期末試験で、なんと満点を取ることができ、大変満足いく成果が残せたと思っています。10 ページ程度の台本を覚えて演技を披露したのですが、本当に台詞が覚えられなくて、一時はくじけそうになりましたがなんとか台詞を覚え、最後には無事に演技することができました。台詞を覚えてしまえば、後は日本語で演じるのとそう代わりがないので、周りの1年生に比べれば、相当有利だったのかもしれませんが、とにかく、良い成績を収められて満足しています。

THEAT374 は日本の演劇史について学ぶクラスです。今学期の終わりに **term paper** と **take home exam** があり、計20ページの課題をこなすことになり、本当に死ぬのではないかと思いました。日本語で書けと言われても、20ページ書き上げるのは大変苦勞すると思うのですが、それを英語で完成させたことに自信を持ちました。個人的にはこの科目も満足いく成果が残せたと思っています。

ESL113 は英語のライティングのクラスです。この科目は反省せねばなりません。他科目の勉強で時間をとられてしまい、**ESL** は手を抜いてしまったように感じます。期末試験が近づいてくるにしたがって、**ESL** の課題への取り組みがおろそかになってしまいました。**THEAT374** で書いたレポートの量に比べて、質も量もライティングのクラスの方が見劣りしてしまいます。来期は課題提出のための計画をきちっと立て、**ESL** に取り組みたいと思います。

全体としては良い仕事ができ、自信をつけることが出来ました。ただ、科目によっては時間の関係もあり、手を抜かざる得ない科目があったのが心残りです。

学期が始まった当初、英語がわからないことへのストレスで参ってしまいそうになりましたが、今学期を振り返ってみて人間やれば何とかなるものだと思えました。来期は今期の経験を活かし、計画性を持って授業に取り組んで行きたいです。

2. テレビや新聞では教えてくれないアメリカ

皆様はアメリカについてどのように感じているのでしょうか？韓国以上にもっとも日本に近い国だと思っらっしゃるのではないのでしょうか。そして、アメリカのことをよく知っていると知っているのではないのでしょうか？しかし、テレビや新聞だけの情報では決してわからないようなアメリカの側面が多々あるのです。今回はそんな中から、2つだけ取り上げてみたいと思います。機会があれば、次回以降の報告書でも報告していきます。

2. 1 人種の問題

アメリカのテレビドラマが日本で人気を集めていますが、そこに登場する人物は必ず、黒人と白人それに黄色人種と一緒に登場します。そして皆仲良く一緒に居る光景が描かれます。しかし、実際にこちらで生活をしていて感じるのは、白人は白人と、黒人は黒人と、アジア人はアジア人でグループを作って、人種が入り混じって一緒に居ることは稀であるということです。ということは、テレビドラマで描かれるアメリカの日常は、人種という点においてまったく嘘を描いているということです。テレビドラマは一つの理想としての社会を描いているに過ぎないのです。

とって、白人や黒人がお互いに忌み嫌っているかということそうではありません。お互いにクラスでは仲良しです。ですが、なぜか課外ではお互い別々になる。友人が言うには、個人で付き合う上では別に人種の壁はないのだそうです。ただ、グループで集まると人種同士で集まってしまうよ

うです。おそらく、白人は白人の黒人は黒人のアジア人はアジア人の文化があり、それぞれ共感しやすい近い文化の人間と一緒にいるので、自然とそうなるのではないかと思います。

そのことは仕方がないことだし、それで良いのかも知れません。それは、教室で気の合う仲間と仲良しグループを作ることと似ていて、文化が近く気の合う者同士で集まることを否定しても何も生まれないだろうと思うからです。テレビドラマのような世界は一つの理想かもしれません。ですが、あのような世界を目指すことが現実の社会にとって直接良いことと言えるかどうか、一度疑ってみるべきことなのかもしれません。

2. 2 シカゴで出会った浮浪者

先月の矢部君と村中さんの報告書の中にアメリカの浮浪者の多さを見て違和感を覚えた旨の文がありました。私もその違和感について幾度となく感じています。アメリカ程の金持ちの国は他にないのです。しかし、浮浪者は日本以上に目立つのです。

渡米して一月程が経過したある日、シカゴの地下鉄を利用する機会がありました。そのときの話です。車内で突然、頬骨の砕けた浮浪者がどこからかやってきて、自分の悲惨な境遇を語りだしました。語るといっても、頬骨が砕けて口蓋が変形してしまっているの、何を言っているのかさっぱりわからなかったのですが、車内の人間は皆沈痛な面持ちでその言葉に耳を傾けていました。

一人の男がその場に耐えかねて、次の駅で降り去ったとき、浮浪者は俺の気持を聞いてくれといわんばかりに、閉まりかけのドアへ詰め寄り行きました。それを見ていた男性が見かねて彼の肩を抱き、彼を慰めていました。その光景を見ていた人達の幾人かは数ドルのお金を彼に握らせていました。

こんな光景を私は日本で見たことがありません。まず、浮浪者が電車の中で皆に訴えるということがないでしょう。そして、その浮浪者の肩を抱き慰める男や、彼にカンパする人達などいずれも日本では考えられないのではないのでしょうか。

この違いが良いとか悪いとか、そういうことではないと思うのですが、私はこの数ドルを差し出すことに違和感を覚えました。というのは、彼が今日生きるために数ドル得ることは、彼が生きるという意味ではとても重要なことです。しかし、彼のような浮浪者は日々アメリカに限らず世界中で数多く生まれています。ですから彼に数ドルを握らせることはそのような問題を解決することとなんら無関係であり、本質的には問題は何か一つ解決されないという事実を、彼に数ドルを握らせた人間は知っておくべきだと思ったのです。日本にはない、その場の感情だけのやさしさに私は強い戸惑いと疑問を感じたのでした。

世界一の経済大国でありながら、弱者は路上で集金活動をするしか術のない国。豊かな国である反面、このような自己矛盾を強く孕んだ国なのだと、この事件以来考えるようになりました。国が豊かになることはすばらしいことだと思いますが、ただ豊かになっても浮浪者の数は減らないのだということをも今のアメリカは象徴していると思います。

2. 3 テレビや新聞では教えてくれないアメリカについてのまとめ

私は留学するまで上記のようなことについては全く知りませんでした。人種が共存して居る国、世界一豊かな国という良いイメージが私のアメリカでした。もちろん、そのようなイメージはある一面においてまったくその通りでしたが、逆の一面もあるのだということ、こちらに来て強く感じました。

イリノイ大学という世界でも有数の大学の中で今日も浮浪者がコップを片手に募金を求めていることでしょうか。皆が笑顔で居られる世界を実現するために私に何が出来るか、また何をすべきかを考えながら、もうしばらくアメリカに滞在し、この国を見つめつつ考えて行きたいと思います。

3. まとめ ——7ヶ月を振り返って——

初めてアメリカに足を踏み入れてから、早いもので7ヶ月が経過しました。実は私にとってアメリカへの留学は海外初体験とも重なっています。多くの方は留学する前に一度くらいは海外旅行で海外を経験されるのではないかと思います。私はそういう機会を持ったことはありませんでした。ですので、本当に何もかもわからないところからのスタートでした。

初めての食事、パンの買い方やお金の数え方もわかりませんでした。そういうことは今となっては何の苦労もないので意識することすらないのですが、振り返って見るとそんな状態でよく留学を決意したなどあきれてしまいます。

そんな状態からのスタートでしたが、振り返って見れば英語で大学の授業を受け、単位を取り、文学の授業のレポートを3週間で20ページも書けるようになっているのです。今学期までの努力を振り返ると、大きな自信になります。

また、アメリカや韓国、その他の沢山の地域の人と友達になることができ、世界が複雑でいろいろな考え方をを持った人が居るのだということを、改めて思い知らされました。この経験からいわゆる国際感覚というものを身に付けつつあるのだらうと実感しています。

残り5ヶ月、これまでの経験を活かしつつ来学期も楽しく精一杯頑張りたいと思います。

以上を今月の月例報告とさせていただきます。